

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

Blue

Blue

武内神社考證 久世郡之部

谷

冊次	冊數	番號	類別	架號
八	壹七	壹	武武	壹

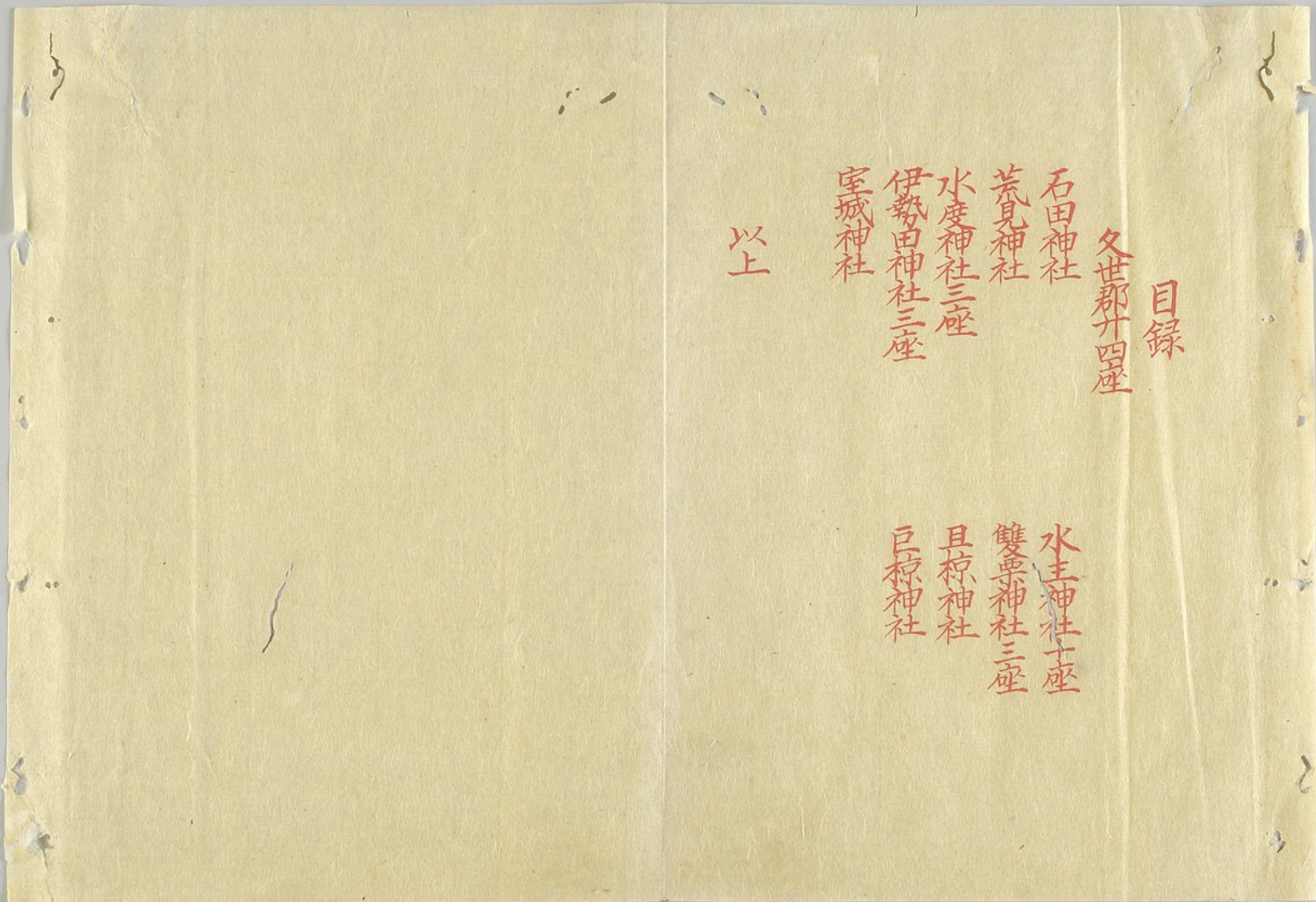
七

東京府 圖書館 印

374



表紙 5 L04001



以上

室城神社

伊勢田神社三座

水度神社三座

荒見神社

石田神社

又世郡并四座

目錄

巨椋神社

且椋神社

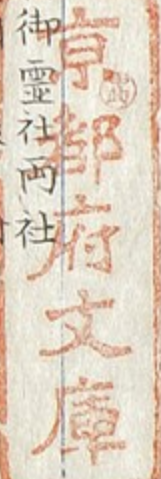
雙栗神社三座

水主神社十座



久世郡式内 二十四
座ノ内

石田神社考證 綴喜郡岩田村御霊社兩社
上申書及繪圖ノ後ニ附



石田神社大月次新嘗

石田ハ伊波太ト訓スヘシ 萬葉集十上代石田杜
心鉞手向為在味相難 祭

神石田氏祖神歟 日本紀 垂仁天皇卅四年先是要山背
新幡戸邊生三男云々五十日足彦命是

子石田君
之祖也 ○山城志云在岩田村今称御霊 岩田村ハ綴
喜郡葦二區

按スルニ石田ノ杜石田ノ小野ナト云ハ古歌ニ山科

ノ石田ノ杜ノ須馬神ニ云々又山品ノ岩田ノ小野ノ

拵原云々ナトミヘテ宇治郡ノ山科御ニアリト知レ

タレトモ今吉野詣記ヲミルニ鳥羽より一つのみま

京都府

きにまかりけり中略いもこの小野をといふ所を過

て天神森にいり云々トアルハ是正シク此岩田ヲ

云ルナレハ蓋シ件地名ハ兩所ニアリト覺ユサテ又

此岩田村ノ古ヘ久世郡タルコト今其確證ヲミスト雖

モ土人ノ共ニ傳フル所ナレハ蓋シ誣ルニ非ルナル

ヘシ然則山城志ニ石田神社當村ニ在ト云モノ固ヨ

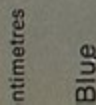
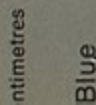
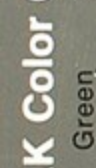
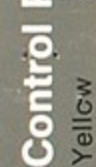
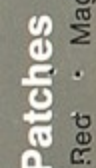
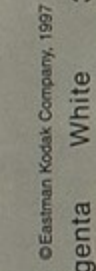
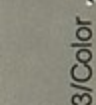
リ掘口ナキニ非ス然而テ此岩田曾東西二村ニ別レ

産神亦二祠アリテ俱ニ御霊ト称スレハ志則果テ何

レノ祠ヲ指セルニヤ今兩社ヲ探尋スルニ西岩田ノ

御霊ハ境内除地濶大ニシテ傳記モ亦僅ニ存シ東岩





田ノ御霊ハ境内除地校少ニシテ傳記存スルナク延
 寶七年ノ檢地帳ヲ見ルニ若宮御霊ト記載シアレハ
 西岩田ノ方ヲ以テ正シト為シカサレトモ旧淀藩ハ
 東岩田ノ方ヲ以テ石田神社ト定タリ今何レカ是ナ
 ルヲ知ラス

但シ西岩田ノ記ニ古宮ト称スルモノハ此西隣内
 里村内神社ノ旧地ニシテ石田ノ旧址ニ非ルナリ
 類社

河内國若江郡石田神社三座伊勢國多氣郡越前國敦賀
 郡同國坂井郡石田神社各一
 大和國吉野郡伊波多神社

京都府

京都府山城國綴喜郡第二區岩田村

鎮座

御靈神社

祭神 五十日帶彦命

由緒 傳記之写別冊ヲ以奉備 御高覽候
但旧神官無御座候

勸請年月 不詳

但元久元年當所字古宮ヨリ當地遷座仕候

一 例祭 九月二十三日

但往古者八月十八日近年迄九月九日ニ而御座候

一 社殿建坪 貳步貳分五厘

并殿 六步

末社水神社 祭神 罔象女神
大綿積神 合祀 貳分五厘

井戸屋形 壹步五分

御旅所神輿仮舎 三步

一 旧境内反別 六反五畝二十八步

一 現境内段別 五反九畝拾八步

御旅所 貳畝貳拾四步

但右者総而除地御座候

一 旧社領朱黑印等無御座候

一 氏子戸數 九拾五戸

但壹村限

一 自該廳距離 五里拾八町余

右之通相違無御座候以上

明治八年十月

御座神社御堂

和田作治



同所古長

森重兵衛



京都府權知事

榎村正直殿

山埜國惣表郡山野莊岩田村名所記

地名之事

此里上古久世郡有り今古惣表郡も属す
始作石田或作以和多名岩田の古書云山背
國久世郡以和多名和語對類云曰く山州の岩
田小郡の岩田云萬葉集九卷式部は藤原宇
合哥曰山部の岩田の山部の人を云ふは
やる山部といふ人又やるる人の山部の

山部ふは海をわたりて向ふをわたりて妹ふはが
を記又新撰撰集惟宗の景歌とては
名はさぬやもこれ山部の山部ふを
明る形に法沙云或る山合の歌と今の山
科の石田と依るなりといふは山部新昔より
是個の奇蹟あり古老の云ひ傳ふ此里旧村の
棟札の記曰桓武天皇の御宇延暦六年
三月十日是人の老翁自らと被幣島越捧



里人の告げに云く吾々の山階の石田の杜の
皇神の社藏有り此野皇神有縁の地をま
御尋速に祠を經營し皇神を祭り祀を崇め
民衆を建て石田の里を治め御皇神成せり
はましと云ひて海を渡るは神院跡を
とて民俗述を記し書たりしと云り志くれ
此里も神の告げより名残ありと云り又
此所石田の井は大なる泉ありて名を
又字原形を傳へ山科の里は石田村あり此
里の産物と神の告げありたり

石田の記

石田の里の石田は昔田の里と稱
し石田ありしが物なきの里を後りて石田
と稱せしなりと云ふことありて村を石田とせり

山階の推原

今石田の里は石田の海を治るの里也

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

KODAK Color Control Patches

Red

Magenta

Yellow

Green

Cyan

Blue

石田神の方より所古歌より多し詠たる
山部の人を系の一なり

古宮田記

當所埤方五所并より古宮あり昔御靈の
本社世所よりありて社南向を居東向前は石
橋ありて古宮より水逐き下へ橋よりなる然る亦
元々元年古宮はたの場とて廻りて南より遠
座りて今の御靈の社是る累同年東は石田
若宮御靈の社立今於古宮居の本宮所
あり石田村の北より西より石の塔鏡の辻亦そ
邊よりあり

牛廻りの松

古宮よりあり松并る所の山及び分所より
六七間あり地面の高五人をり方五間余の芝
原をまよせ松の大木は五本ありては中男
松の名木あり木の周りに古宮高き数尋近村

より是より折し勢来りそ此未子息ひ乃矣
とて恐れと奇懼多き事多し河を其國に如
享和元年六月晦日木津川流の犬位提切の
時半廻りの地形流れ古来より衝當り此所
淵と名ふ神未一時まをりて此れも村人例年此池
の邊に此半を奉りて坊平の儀を守り恒例とす

御霊大明神

同所北林の内は鎮座と昔々古宮に在り
小聖の並の惣社なりしか元元年三月今の
地は稱せり業を多し此社の系神山州名海志
に御霊の所の内又方丈の靈社と稱するよし
此れも今も志りて 靈仁天皇の皇子五千
日足彦命なり日本紀を考へて曰く皇要代
大國不遲々女新幡戸邊生子弟一祖別命
弟二五千日足彦命 此者石田君
之上祖云云 類聚三代格云
諸人氏神多在畿内毎年二月四月十月何

廣先祖之常紀云とあるは當社より右田
の君等の祖神と祀れるを延喜式も所載右田
神社是なり各跡志等と杜撰多し信用
はるまじく例祭八月十八日今と九月九日あり
境内東西四三間南北四六間六文五畝八歩
馬場の長さ百三十五間道廣さ廿八丈八尺

神繩掛の松

神繩の松は神前多居の左右橋の辺にあり
正月十日神繩釣りやまを拝殿より儀式となるは
恒例なりが今も其式絶えて時祈殿より
御鏡の餅を載せしむる退散はるるのみ

大龍王宮社址

本社のお東田の中よりありお祭神を國家女神大
跡積神とありて大龍王宮と稱たり
俗語轉訛して今も大上宮ととり大旱魃
なるを祀り村人雨を祈り神を祭るなり

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Red

Magenta

Yellow

Green

Cyan

Blue

KODAK Color Control Patches

©Eastman Kodak Company, 1997

centimetres





御旅所

本社社境より四所余の距離に辰巳若田より
 ある昔に松の天木ありありといひ傳ひ
 今も地面をうりて諸木あり此所も
 除地をす此松も同きあ七間を越たる
 なる



右同前

一七四五拾七
是寺造地古墓中除之

古同前

一七四五拾七

墓所

是寺造地古墓中除之

右三通之法座等以下

明治八年九月

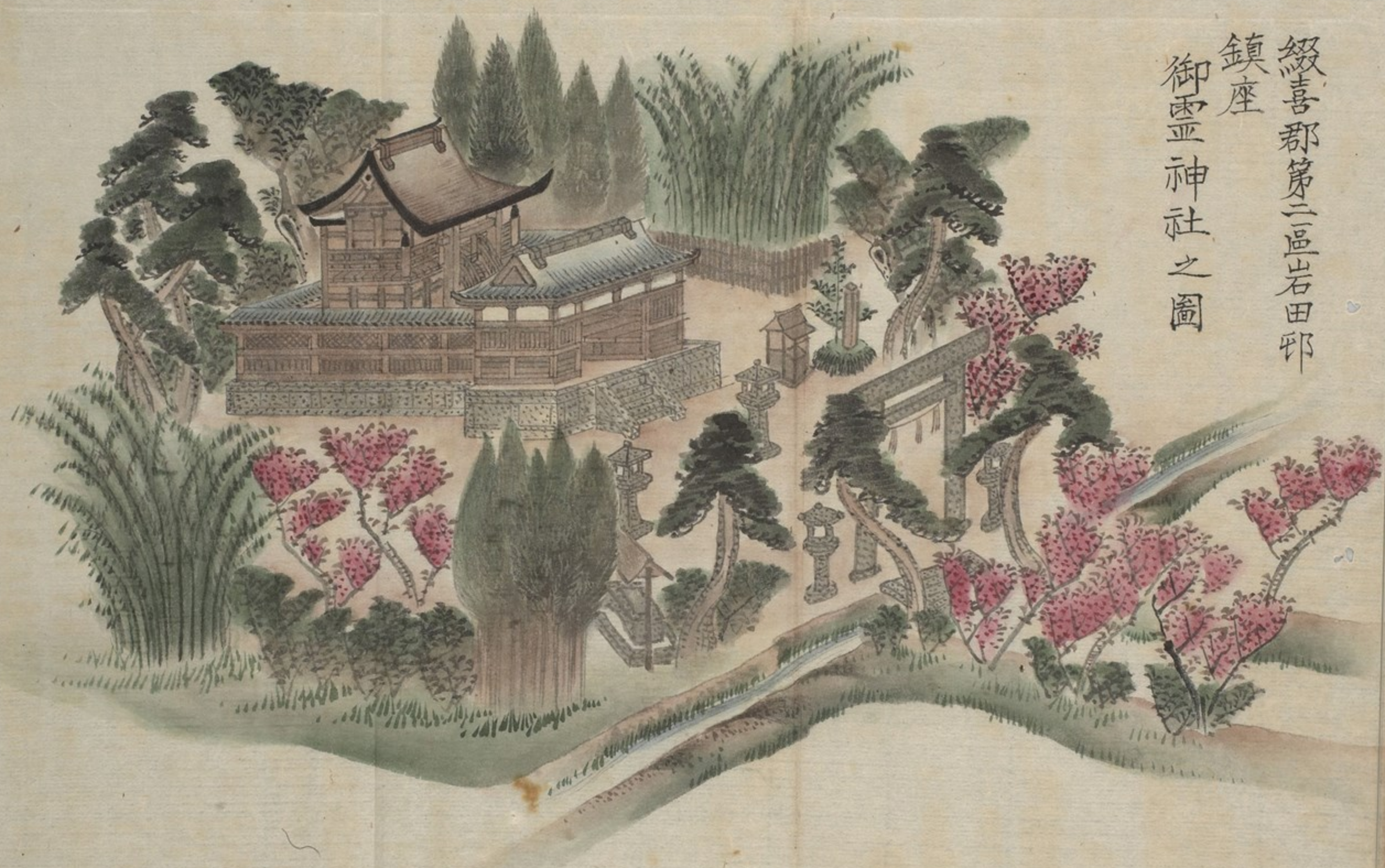
和田作治



京都府権知事

榎村正道敬

綴喜郡第二區岩田郡
鎮座
御霊神社之圖



植村正道殿



御霊神社 5-1 C04001



京都府管下山城國綴喜郡茅貳區石田邑
鎮座 字石田里

式内石田神社

祭神 磐裂神

一 由緒 古書相分不申候

一 位階 家筋

源滿仲卿等

先祖從四位下鎮守府將軍武藏守滿政ヨリ

三拾代孫 祠掌 東加治郎

一 勸請 歲曆相分不申候

綴喜郡茅貳區

一 例祭 九月九日

但御一新後新曆九月九三日祭典仕候

一 社殿 建坪 六坪

末社 若宮八幡宮建坪 壹坪

祭神 仁德天皇

拝殿 建坪 八坪七步五厘

旧境内 延曆以前 及別壹八及五畝步

一 現境内 及別壹及壹畝步

一 旧社領 朱墨印 无御座候

一 手洗所 建坪 壹坪半

往古久世郡之御座候處 弘治元乙卯八月ヨリ
綴喜郡改郡相成候

一 氏子 戸數 八拾四戸

一 京都府ヨリ 五里九丁

各之通取調仕候處相違元御座候此段
奉申上候以上

石田神社祠掌

明治八年亥土月七日

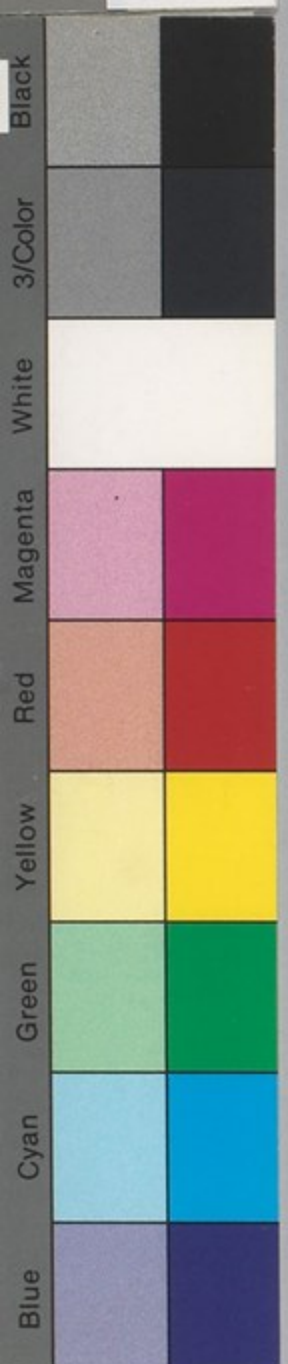
東加治郎

戸長 東 四 郎

綴喜郡第三區

京都府權知事 榎村正直殿

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



石田神社

京都府権知事植村正直殿



石田神社 5-2 C04002

久世郡式内 二十四座ノ内

水主神社考證 其社上申書及繪図ヲ後ニ附

水主神社十座並大月次新嘗就中同水主坐天照御魂神水主坐山背大國魂命神二座預相嘗祭

水主八美奴志卜訓スヘシ ○祭神二座八明カナリ八座

不詳 姓氏録山城國神別水主直火明命之後也同左京神別榎室連火明命十七世孫吳足尼之後也云々于時

古麻呂家在山城國久世郡水主村云々曰事紀天孫本紀玉勝山代根古命山代水主雀部連等祖按ルニ八座件ノ

諸姓ノ祖神ニ非スヤ ○考證云按自火明至山代根古都十世其神

名天照國照彦火明尊 天照御魂神 次天香語山命次天村雲命

次天忍男命次建額赤命次建筒草命次建田背命次建諸

京都府

隅命次倭得玉彦命次玉勝山代根古命 山背大國魂命神 已上十

座歟 按スルニ考證ノ説天照御魂神ヲ以彦火明命トナスモノ尤可疑ナリ尚能ク考フヘシ ○今綴

喜郡第一區水主村ニ鎮座ス 水主村今綴喜郡ニ属ストイヘトモ當社鎮座ノ地ハ

尚久世郡タリ。山城志云在水主村今祢別雷神延喜式為久世郡土人云其撰社音在下水主村往年洪水大堤決崩神祠與民居俱流亡決口地今日八町。式ニ相嘗祭神七十一座云々水主社二座同三祈雨祭神八十五座云々水主社十座。年中行事歌合ニ天雲のたやまなひく水主の神に手向をなひやかさねん

按スルニ當社曾別雷神ト祢スルハ其説詳ラカナラ

サレトモ則同村ノ氏神ニシテ祭神十座ノ靈代今尚

分明ニ鎮祭スレハ固ヨリ疑フ所口ナキナリ

神位

續日本後紀美和十一年五月甲辰奉授山城國水主神從
 五位下三代實錄貞觀元年正月廿七日甲申奉授山城國
 從五位上水主神從四位下合殿比咩神心五位上同八年
 十一月廿日辛酉授從四位下水主神從四位上

官幣

三代實錄貞觀元年九月八日庚申山城國水主神遣使奉
 幣為風祈焉同八年七月十四日丙辰班幣水主神賽前日
 禱魚祈嘉澍也九年十一月十二日丁未遣使於山城國水
 主神社奉幣先月祈五穀今以賽元慶二年六月三日丁卯
 自去年至此亢陽不雨名山大川能興雲致雨班幣祈雨水

京都府

主社是也





水主神社取調書

祠堂

谷常般石

綴喜郡茅三區



京都府管下山城國綴喜郡第二區水主村

鎮座

字龜這
久世郡綴喜郡雨界

式内

水主神社十坐

大月次新嘗就中水主坐天照魂神
山城大同魂神二坐預相嘗祭

祭神

天照御魂神

天香語山命

天村雲神

天忍男命

建額赤命

建諸隅命

建筒草命

建多脊命

倭得玉彦命

山城大同魂命

綴喜郡第二區

神位

美和十一年五月授從五位下貞觀元年正月授

四位下合殿比咩從五位上八年十月授從四位文

德二年七月辛未宣命水主社為祈雨也入夜陰雨

一 勸請 年月未詳

一 例示 旧曆九月三日

一 社殿 建坪六坪

一 未社

野上社 建坪一坪

金刀羅社 建坪一坪



綴喜郡第二區

- 一 并殿 建坪十坪
- 一 旧境内 五反六畝三歩
- 一 現境内 四反壹畝七歩
- 一 旧社領朱墨印無御坐候
- 一 氏子 七拾八戸
- 但 一村限
- 一 京都府廳迄五里廿町

KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10



水主神社之繪圖

水主神社
水主神社
水主神社
水主神社
水主神社

久世郡式内 二十四座ノ内

荒見神社考證 田井村富野村上申書并繪圖ヲ後ニ附

荒見神社

荒見ハ阿良美ト訓スヘシ○祭神不詳○同郡茅二區田

井村ニ鎮座ス 山城志云在田井村今稱伍社

按スルニ田井村ノ伍社旧記存スルナシ荒見神社ヲ

自然石ニ刻シテ社邊ニタテ又鎮座ノ地ヲアラミト

字ス然ルニ同郡茅二區富野村ニ森西氏系図ナルモ

ノアリテ其系図ニハ其村ノ産神伍社ヲ荒見神社ト

記載シ又其伍社鎮座ノ地ヲ荒見ト字スト云テ以テ

京都府

兩村交証シ歲ニト決スヘカラナルカ如シ然ト雖モ

所謂自然石ニ刻スルモノハ近年ノ巧ニ非ス森西氏

系図最モ疑ヒナキヲ保タス又地名アラミノ證モ田

井村ニ於テハ慥ニ其村ノ帳簿ニ存シ富野村ニ於テ

ハ顕然徵スヘキモノナシ況ヤ古人皆田井村ヲ信シ

テ其說富野村ニ及フナシ是以考フレハ田井村ヲ正

シト為ヘシ

但シ富野村ノ上申書及繪圖ヲ附スルモノハ後考

ニ備ルナリ

京都府管下城國久世郡第三區田井村

鎮座字荒見

一荒見神社

祭神

武甕槌神

仲哀皇大神

應神皇大神

別雷大神

倉稻意神

一由緒

但青大石_テ從往古有之

荒見
神社

此外由緒書類等_茂有之_二百五拾年以前

寬永七_十年堤切之節書類之向流失仕_狀

於舊例_ヲ以四家_ニ明治六年_ニ追宮司卜唱來候

人名丸之通

田井傳四郎
田井治平
田井市之丸
黒川九重郎

一 勸請

年月不詳

一 例祭

九月九日

但舊曆ヲ用フ

一 社殿建坪

拾六坪

拜殿

六坪

神供所建坪

貳拾坪

末社市杵島姫

壹坪

末社天満宮

壹坪

舊境内及別

壹及四畝八步貳厘

一 現境内

從前之通

一 氏子戸数

四拾七戸

一 系

但田井村惣氏子ニ御座候也
系 田井村惣氏子ニ御座候也

一 自請廳距離



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11



荒見神社4 5-3 L04028

一 京都府ヨリ 四里貳拾町

右之通 御座候也

右村荒見神社 祠堂ヨリ 見勢
同郡同區下津谷村室城神社

明治八年 庚子月

祠堂

田口明福



同村戸長

田井傳四郎



京都府権知事 榎村正道殿

荒見神社之繪圖



古今圖書集成
四庫全書
禮記典



京都府下山城國多摩郡茅田富野村

鎮座 茅田荒見

荒見神社

祭神 天神宮

天兒根命

蛭子命

加茂大神

八幡大神

尚書殿有一控書靈不分明

一由緒別記之書種在

一勸請年月 不分明

一創築日 同曆九月五日

一社^{天神}殿 建坪五坪五分

社^{地靈}殿 建坪二坪五分

一併殿 建坪五坪

但^之里程 六里半

祀

京都府小幡郡久世郡茅之宿為聖
村之神由緒

回祓之由天保五年十二月十八日經大
所屋中尾清之敷宅礎失之跡經中
書記類之殘燒失其石之付其得不了
但一傳古之傳聞之義其最見神社
之中鎮社有之寛平中再建此字五

社名之五社之神之御本殿勸請
此由也則地名其見回之神境由
續北方凡三町四方御本殿在古社
把社村觀音寺村中村宿野村長
池町共其荒之經上唱由由國傳在
一大刀一腰則福未孫經口寺治
之傳書附

一鳥之按之觀上之木鳥指之傳經也

杉外高取珠之植村氏より奉陪
則以在作之但一年暑ふ多暇

祠学

明治二年十月四日

西村右衛門



前書通 本通 本通 本通 本通 本通
仕致 以之 友村下長

北村氏三郎



長也下長

二種 田六三郎



京都府權乞事 植村正直殿

森西氏系圖

中臣姓

家紋藤丸

南都春日社

晉紋

祠官分流

本國常陸鹿嶋

氏神春日五所大明神

南都三笠山鎮坐

天兒屋根尊十八世苗裔

常盤大連

欽明天皇御宇始賜中臣姓

可多能祐大連

御食子鄉連

藤原氏元祖大織冠鎌足公

小德冠國子大連

神祇道官領常陸國大宮司

糠手子大連

國足

神祇祭主

意美磨

神祇伯祭主中納言

清磨

神祇伯正二位右大臣賜大中臣姓

國比呂

小德冠鹿嶋大宮司

秀磨

鹿嶋長官大宮司

國雄

大宮司

行

秀

下總國香取神宮

大宗連

鹿嶋大宮司

時風

中臣殖粟連春日祠官祖
崇祭辰市大明神第一殿神

秀

行

中臣殖粟連春日祠官祖
辰市大明神第二殿神

春日神社鹿嶋大明神自常陸國之御住所尋乘

物以白鹿為御馬以栴木枝為御鞭中

臣二人召具御出行神護景雲丁未六月

卅一日伊賀國名張郡夏見一之瀨河

沐浴坐之間以鞭為驗件河邊立給則

成樹生付畢自夫渡御同國薦生山數

月令居住御坐于時供奉時風秀行等

燒粟各一賜宜汝等子孫无断絶可我

仕者其殖粟必可生付云隨仰殖即生

付云自此始号中臣殖粟連同年十一

月七日薦中山御遷坐也同二年戊申正

月九日大和國安部山遷渡坐之處春

日復本明神詣安部山申言御神自此
北方有殊勝之靈地名三笠山晉代此
山我可賜云依之同十一月九日同國
添上郡三笠峰御遷永靜御坐然後天
兒屋根尊經津主尊美姬御神等各移
遷三笠山可護持法相大乘矣同十一
月九日戊申寅刻立宮柱造立神殿兮奉
號春日五所大神矣以上神祕口訣可有云云

殖粟連祐風

春日社正殿預正神主

殖粟連神主

春日社神主
辰市家始祖

殖粟彦秀楯

春日社司權神主
大同四己丑年八月廿八日逝去

中臣秀末

春日社官氏人

天長元年為所領山城國久世郡安羅
見鄉仍移住之為安羅見天神宮別當
社務職嘉祥三庚午年五月七日逝去延喜式神
名帳久世郡并四坐之内荒見神社是也

中臣登野磨

荒見神社祠官并五社明神社務

稱其地彌登野或富野天神宮側構居

館仍彌森氏今福森垣丙地是也貞觀八丙戌年四月

七日逝去

中臣登田彦

春日社正官神氏人

秀味

富野前司富野氏之祖

秀晴

森圖書大輔

寬平二年富野荒見天神宮再建勸請

之此刻以中臣時風之靈崇祭御靈大

明神嶋室城大明神相殿号嶋御靈

秀澄

森次官大輔

兼平六丙申年十一月廿日逝去

秀定

森太夫

秀向

森川始祖

秀海

森大夫輔

秀致

森次官

秀

則

森藤二

秀

隆

森掃部大輔
實中臣祐房二男

崇德院御宇長兼四年二月廿七日南
都春日若宮神別殿勸請之刻出勤之

神役之内也

秀

親

森左馬太郎
自是為武家嗜弓馬道

保元元年七月 崇德上皇居白河宮

召軍兵依之安藝守清盛左馬頭義朝

守護 禁裏森秀親引卒一族郎從等

屬清盛之幕下屢顯戰功云

平治元年十二月藤原信賴及謀之刻

屬平重盛發都芳門大内裏之門戰信賴之軍

屢勇戰信賴之兵大懼失色引退乘勝

攻入内裏戰惡源太義平顯猛勇直攻

内裏閉門堅守左馬頭源義朝還來見

平氏赤旗不得入内裏攻六波羅之館

不利義朝走東國清盛感賜太刀一振云
安元二丙申年九月十七日逝去

道

祐

吉富三郎
吉富氏祖也

繁

秀

森六郎

屬源氏之旗下隨仕蒲御曹子源範賴
朝臣為木曾義仲之追討隨軍上洛於
江州勢多橋戰今井四郎兼平之軍得
勝利此剗稻毛三郎重成渡河仍續渡

河入京顯戰功其後發一谷羌八嶋屢
得勝利云源賴朝將軍御感之余賜曰
領其後鎌倉在番役

建久元年庚戌二月廿日依枕原景時之
謔言生害

五社神官三郎大夫為秀

茂

秀

幼名德壽丸
本林藤内左衛門尉正六位下内舍人

奉仕九條關白道家公在京被補瀧口内

舍人云、兼久三年夏四月 仙洞御所
召軍兵討鎌倉事露顯為鎌倉追手諸
將等上洛依防禦、向宇治忽戰死五
月六日也

水主神官忌部道實

僧玄巖 久世寺衆徒

長光 木林源内兵衛尉

兼久亂後到南都於尾花谷側蟄居

秀益 森三郎亦號森垣内南都住居

秀昧 森垣内八郎

秀夏 森垣内八郎九衛門尉
移山城國江津村構屋敷有孫

秀矩 森垣内三郎
畠野住居有子孫

實明 森六郎九衛門尉

再歸住山城國畠野鄉則南都春日社

氏人也每度出勤之云、正慶元年壬申六

月廿九日卒法名道順

僧 叡 明

大住寺衆徒

僧 叡 觀

南都招提寺住侶

秀 雅

森藤六郎

元享建武之年中幼少故何不仕其後

貞治元年項奉仕足利將軍源尊氏公

顯武名應安二己酉年九月十三日桂川

合戰討死法名道喜禪定門

秀 國 滿信森但馬守

森壯司三郎

行 實

森場四郎九衛門尉

秀 助 森東藤六郎

秀 信森西新丸衛門尉

奉仕足利三代將軍源義滿公則南方

發向顯軍功亦屬畠山官領尾張守殿

在紀州有戰功至德元甲子年十月十六

日逝去法名晴山宗岳大禪定門

實 延森西僧後守南都春日社屬侍則御祭禮出勤之

應永四年寺田蘭田氏土地爭富野繩
手合戰討十三人味方七人戰死然後
和談永享五年^癸三月九日逝去

法号 春順道味大禪定門

妻放尔權大夫忠成女

城太郎左衛門尉妻

女 子

枇杷庄住人

女 子

乾甚内兵衛尉妻

女 子

久世播摩守高康妻

盛 榮

木田玄番介
枇杷庄木田氏養子

秀 勝

森西三郎
南都春日社氏人
永尔内膳正
森但馬守
森西三郎

寛正二年富野御宮再建總奉行三人

之内也亦同村觀音堂再建 妻水主

遠江守景房女文明元年^{己卯}十二月官

領細川勝元公之麾下與力京都出勢

同二年二月十二日洛北内野合戰得

高名勝元公賜感狀同十四^{壬寅}年八月

十六日逝去法号猶算清蓮大禪定門

秀保森西内藏進但馬守

自是南都興福寺出勤為所領賜和州
木殿庄一圓妻寺田長者大和守助勝
女明應二年為大政所椿并山城守殿
之旗下與力山城侍之内也奈嶋庄内
六十貫文知行則知行目錄頂戴之永
正十癸酉年七月二日逝去

了雲院殿宗清大禪定門

女子吉井遠江守妻

女子森垣内亦太郎妻

僧八幡山社僧禎圓房

秀恒森西修理進

天文十九年為椿井加賀守殿與力侍
連署狀着到之内屢顯軍功賜感狀云
妻寺田堀攝津守忠朝女

弘治三_丁年二月十三日卒

法号宗意禅定門

崇光寺順道房

八王寺光範房

成末

吉田又三郎

同村吉田氏養子

實勝

森西隼人助

永祿九年山城國侍別着到之内也爲
椿井殿旗下與力侍中内也

永祿元年九月撰津芥川城合戰之刻

寄手之内得高名云々松永彈正久秀

水澤左京亮引卒軍勢同二年八月北

日寺田富野邊亂入之刻堅固防戰松

永不利引退云々同十_丁卯年十月十日

三好左京太夫義繼以下於南都多門

城責之刻枯山新介入道俱大爭戰此

刻三好方籠大佛殿松永攻之大佛殿

燒失於火中爭戰討死法靈号誓光顯禪定門

妻 枇杷庄奥久左衛門尉義智女

秀 豊 森西三郎左衛門尉

奉仕右大臣織田信長公賜舊領若干

富野之内奈嵩之内 佐山之内將軍義昭公自美濃御上

洛之刻先馳供奉富野一族參向之御供

奉申上也天正八庚辰年六月十四日大阪

本願寺攻之刻戰死法觀名智宗喜禪定門

妻 森藤五郎正次女 松永家臣

信長公御朱印之寫

將軍康乃公先馳供奉可

法申之旨以撰紙申遣在

此節所患若肝要仍各

可領如先之可法下置在

猶依久冒右傳門尉可申在

也

十一月六日

信長

御朱印

尾野惣侍中

光

勝

森西沼部九衛門尉

奉仕大閣秀吉公伏見城在番組役賜
知行八百五十石也則御朱印頂戴慶
長十九年大阪入城奉仕右大臣秀頼

公同并年五月五日戰死

法名

妻

久米田大炊之助女 法名

為

秀

九吾右衛門分家九郎右衛門為次

定

祐

金 吾分家善右衛門 重實

勝

豊

孫九衛門分家彦七郎 光道

則

重

源太九衛門

右兄弟四人大阪戰死

大閤秀吉公御朱印

知行目録之事

一三百五十石

播磨川邊郡

前野村

一二百石

同之郡之内

石及村之内

一三百石之内

河内美野郡

美野村之内
上野村之内

合八百五十石之内

右為恩賞之可知行者也

天正十四 丙戌年

六月廿八日

御朱印

森西治左衛門尉

秀

清

森西善四郎

妻同所水口多丸衛門尉美盛女

女

子

田口清左衛門貞政妻

女

子

喜多尾勘十郎光長妻

秀

澄

村士氏養子

五兵衛

秀

政

森西善四郎

妻北城弥惣兵衛女



山城國久野郡久野
 富野村
 氏神境内繪面

秀女
 澄子

喜多尾野十郎光長妻
 村士氏養子
 五兵衛
 木林西善四郎



久世郡式内 二十四
座ノ内

雙栗神社考證 榎本宮上申書及繪圖并
雙栗三宮本源記後ニ附

雙栗神社

雙栗ハ佐久里ト讀リ○祭神不詳○山城志云在佐山村

今稱榎本宮 佐山村同郡
第三區ナリ

按ルニ志云榎本宮ハ曾テ八幡宮ト稱シ雙栗神社ノ
證今徴スヘキモノナシ又旧淀藩々治ノ比當社ヲ雙
栗神社ト定メタルモ今其前ノ考證ヲ見ルニ未タ信
從スルニ且ラス相樂郡木津人今井某藏書ニ雙栗三
宮本源傳紀ナルモノアリ此書盡ク信スニ且ラスト

京都府

雖モ貞治三年ニ記シタル傳紀ノ寫ニシテ又據ロナ
キニ非ス其書ノ趣ニテハ今綴喜郡ニ屬シタル宇治
田原御ニアリテ又雙栗寺ナルモノモ其地ニアリト
云 此雙栗寺
今廢レリ 是則宇治拾遺ニミヘタル糞栗燒栗ノ邊
ニシテ雙栗ノ号ニ由ナキニ非ス雖然其書指所ノ諸
社今又證スルニ且モノナケレハ如何トモ定メ難シ
故件書及田原御諸村上申書ヲ附テ後考ニ供ス

神位

三代實錄貞觀元年正月十七日甲申奉授山城國心六位
上雙栗神從五位下

京都府管下山城國又世郡第三區佐山村



鎮座佐山村之内

雙栗神社

祭神

天淳中原瀛真人天皇 天命開別天皇
應神天皇 間人后女

一 由緒山城國又世郡佐山村氏神雙栗神社、私

元祖本頭橘良基紀別熊野神官首日人王五拾六代

清和天皇御宇 宇佐八幡宮、男山、勸請時

良基此三鄉靜境也、則住定捺荆刈拂打邑攝

然男山參詣運、又四隣民此、慕集民戶斬

競豐饒地成、又西南一畝、從來一根、棟木大

樹有梢高枝、茂多、宇之死、青山時、人王七拾

五代天治二年春二月橘良基八幡宮勸請可

如名夢以、石勒朝廷奏棟木八幡宮男

二條院、河守、延保元年、勸請、河守、河守

勸使、河守、河守、河守、河守、河守、河守、河守

如、神、殿、河守、河守、河守、河守、河守、河守

司トナシ玉一リ 意保如年 河所紙之事ニ依テ
 勅使ヲ 由余ニシテ 幣帛ヲ 捧ガシ 宜命ヲ
 賜シヨリ 以東 弥徳 遂ニ 亡命ニ 歸テ 記方ニ 米
 俵 告成 運ビ 群后ノ 長知 惠ニ 需ム 米俵
 燈ヲ 歎 舞ニ 祝詞ノ 勅訓 報ノ 奉 深ニ 御音 鈴
 ノ 玉 媛ノ 始ナリ 物 不 朽 正 夕ニ 賽 足 在 其 卯
 瀧リ 速ナル 事 木 卯 御音ニ 通 長 方ノ 上
 三 御 村 言リ 東 卯 里 平ニ 遥 拜 祈 祈リ 儀ニ
 也 河 孫 卯 言リ 山 卯 方 一 里 仁 年
 卯 年 卯 東 卯 河 卯 孫 卯 遠 立 卯 言 卯 言
 以 來 遥 拜 卯 卯 祭 卯 卯 言 卯 天 正 十 二 年
 十 月 廿 八 日 卯 卯 卯 卯 言 卯 言 卯 言 卯 言
 卯 卯 言 卯 卯 卯 卯 言 卯 言 卯 言 卯 言 卯 言
 大 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言
 村 卯 林 卯 間 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言
 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言 卯 卯 言



〆大木鷲とて其の夜を殿のつらま致
 子人の関とにくり馬の馳遠ふりト移し
 同大九日ノ年ニ刻ヨリ方他方履廣橋
 傾側をぐる前代希有り控変ナリ
 年を巡り行やます人高しき小依を
 一或は厭ましく死にまの数をえらば
 殿に立ちらゆへ長と半町余の升ニ出テ
 地ニ遊び立ちら馬に蹄跡幾子カ
 ともま針あり
 古七郷ノ下諸人依あ司
 仁平元年三月七日廿七夜
 七郷領之河原
 承元二年三月二日御刺吏公佐守政テ
 城ヲ表末時ニ年五〇ノ末世政も人皆
 りて社をた下カ荒廢一其草打續キ
 瓦跡絶た倫命宣命下知状致通し



文書云一般、炯、紛矢七三〇載、地、シムキ、
情、云、事、シ、建、成、奉、スル、二、行、也、

神官家係代数書

人王五拾六代

清和天皇御宇橋良基豊皇列宇佐八幡宮

山代國界山勸請至東一里良基此地

好住居名三郷卜云

承元三、四年刺吏土佐守政于城名來

一代橋良基

秀至頭紀伊熊野神官山代國位
延喜十一年辛未十月九日百拾三歳卒

二代橋良房

編子氏初守
天應及五、三、寅年九月十三日七十二歳卒

三代橋良親

二男至頭
天祿二、乙、亥年三月廿三日五十五歳卒

四代橋良廣

編子衛門佐
寛弘三、丙、午年四月七日六十二歳卒

五代爲房

編子出羽守
万壽二、乙、丑年七月十四日五十八歳卒

六代橋重行

三男左衛門佐
天喜四、丙、申年十月二日七十二歳卒

七代橋良秀

重行三男伊賀守
永保三、乙、卯年二月九日七十一歳卒

八代橋良次

良秀嫡子左衛門大尉
寛治七、癸、酉年二月十日五十九歳卒

九代橋良弘

三男号左馬頭
元永元年十月五日三十三歳卒

拾代橋良頼

良頼子左頭
長寛二年甲申三月六日七十七歳卒

人王七拾五代

崇徳院御宇天治二年春請教山城國棟本

八幡宮勸請詞官國家安全祈

拾一代橋良成

橋部佐

人王七拾八代應保二年依御教願當官一男号

拾二代橋長元

助長カ長男良成養子修理助
建保六年寅年三月十二日八十二歳卒

人王八十二代後鳥羽院御宇

越後住人城太良助長末男長元河内旅宿

百未幼而男山社参シケルヲ良成憐ニテヒソカニ橋名ヲス

拾三代城勝元

嫡子三郎之刺更城土佐守
弘安二年卯九月廿九日九十三歳卒

拾四代橋光貞

勝元嫡子城土佐守
嘉元三年己巳年九十七歳卒

拾五代橋高重

光貞嫡子城左京大夫
嘉應元年丙寅年九十三歳卒

拾六代橋頼衡

三男城修理佐
元弘元年辛未年九十四歳卒

拾七代橋高利

頼衡嫡子城左近
觀應二年卯年八十歳卒

拾八代橋秀綱

高利嫡子城守、佐
應安三庚戌年七十二歳卒

拾九代橋正光

秀綱嫡子城主馬助
應永三乙亥年七十歳卒

九代橋良雄

正光嫡子城主馬佐
應永三丙申年六十二歳卒

八代橋頼吉

良雄嫡子城石見守
康正二丙子年七十一歳卒

七代橋頼元

頼吉嫡子城若狹守從四位下
文明十六年甲辰年七十歳卒

六代橋幸康

頼元嫡子城左近
明應六丁巳年五十五歳卒

五代橋幸元

幸康嫡子城但馬守
大永甲申年二月十二日五十三歳卒

四代橋幸秀

幸元嫡子城兵庫佐
永禄十一乙辰年四月六日七十一歳卒

三代橋良元

幸秀嫡子城兵部助
天正五丁未年八月一日六十歳卒

二代橋良頼

四男城七左衛門

一代橋元康

良元嫡子城左衛門
應長九甲辰年四月一日五十三歳卒

九代橋元吉

元康嫡子城久左衛門
寛文四甲辰年六月十二日九十歳卒

八代橋元次

元吉嫡子城久左衛門
元禄十五壬午年三月廿七日九十七歳卒

七代橋光基

元次嫡子城久左衛門

六代橋吉勝

城仁石衛門

五代橋光秀

光基嫡子城市、丞
享保十四己酉年四月十三日七十五歳卒

元 四代橋信元

城久左衛門
明和七年九月二十九日六十一歳卒

重 五代橋信重

信元三男城和泉佐
寛政十未年九月三日五十九歳卒

成 六代橋秀成

信重嫡子城久左衛門
享和元年九月二日三十二歳卒

臺 七代橋勝臺

城若狹
天保十一年九月十五日五十二歳卒

敬 八代橋勝敬

勝臺嫡子城近臣
明治二己未八月四日五十二歳卒

勅額

元禄十五年壬申秋勅使前權大納言藤原基時卿

勸請 不詳棟本三左衛門宮勸請天治三年二月

祭

九月九日
但曰曆三御座候

社殿

夷坪拾九坪半

拜殿

夷坪拾六坪

末社

夷坪四坪

祭神

天照皇太御神 須佐男命
蛭子大神 仁德天皇

御供所

夷坪十六坪

一 現境内

九及九畝拾步

一 旧境内

或丁七及四畝十三步

明治丁七及五畝二步
明治三年用拓相成
明治五年申四月打中一御座下三羽成候

旧社領

久世郡佐山村棟本八幡宮領之更

中田八畝并七歩之

石神領未任先規除於地半并

藪林竹木不可有他妨者也任可

如件

越中守

寛永七年十月十日 定綱

社人

城久左衛門

中三西島

西清兵衛

一氏子戸數

二百十五戸

内 佐山村百六十一戸

称村五十五戸
市田村九十九戸

一京都府ヨリ 四里



京都府權知事榎村正直殿



右之通相違^并御座候 依而奥印仕候

明治八年十月

城三郎



雙栗神社口神官

久世郡第三區佐山村

右村戶長

星野惣之丞



KODAK Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10

KODAK Color Control Patches
© Eastman Kodak Company, 1997
Black 3/Color White Magenta Red Yellow Green Cyan Blue



雙栗神社境内
統繪圖

雙栗神社境内
統繪圖

6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90

双栗神社 5-9 C04000

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11

Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

centimetres

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

京都府

雙栗三宮本源傳紀



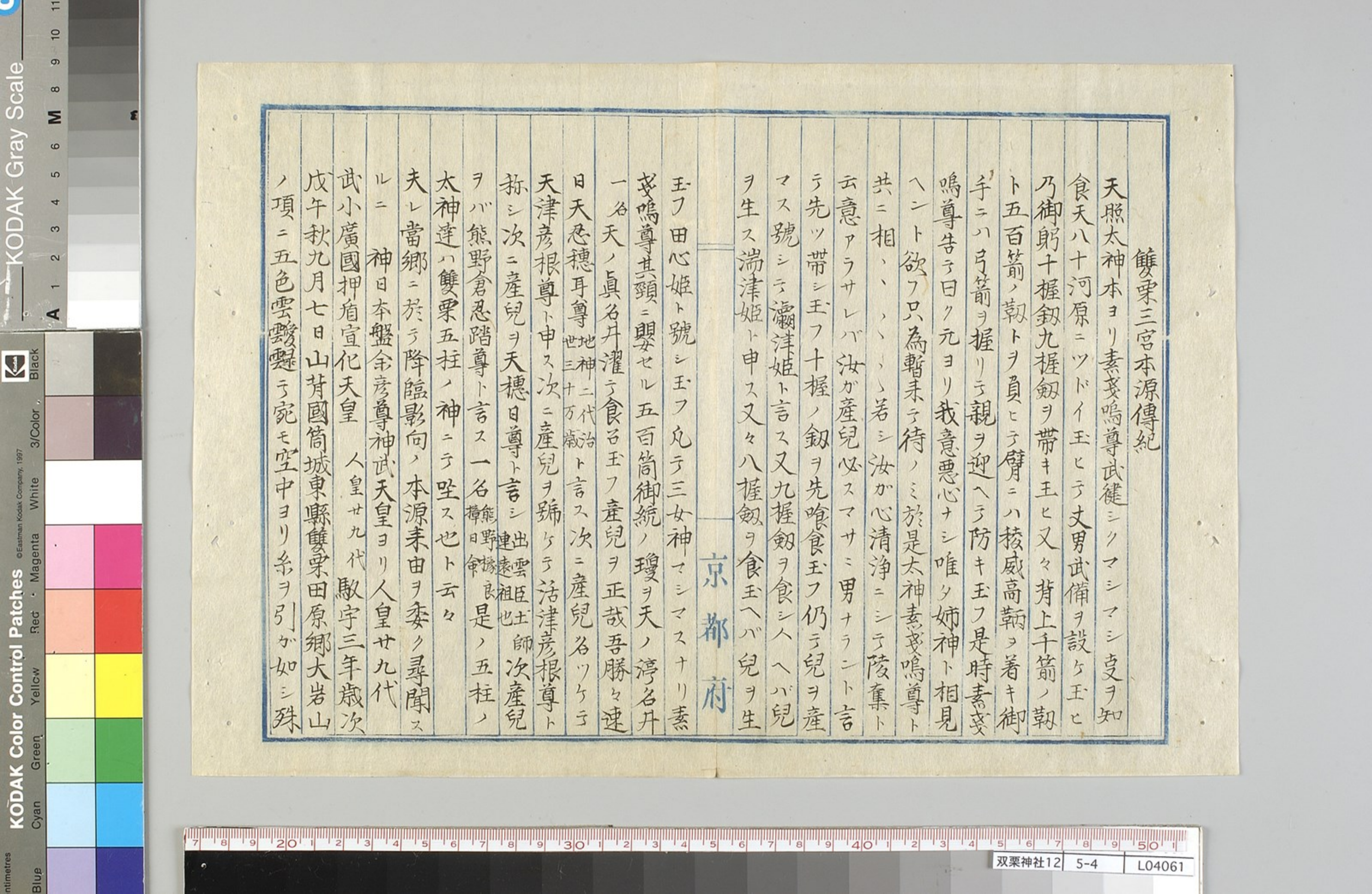
双栗神社11 5-4 L04060

雙栗三宮本源傳紀

天照太神本ヨリ素戔嗚尊武健シクマシマシ支ヲ知
食天八十河原ニツドイ玉ヒテ丈男武備ヲ設ケ玉ヒ
乃御躬十握劔九握劔ヲ帶キ玉ヒ又々背上千箭ノ鞞
ト五百箭ノ鞞トヲ負ヒテ臂ニハ拔威高鞞ヲ着キ御
手ニハ弓箭ヲ握リテ親ヲ迎ヘテ防キ玉フ是時素戔
嗚尊告テ曰ク元ヨリ我意悪心ナシ唯夕姉神ト相見
ヘント欲フ只為暫未テ待ノミ於是太神素戔嗚尊ト
共ニ相、、、、若シ汝ガ心清淨ニシテ陵棄ト
云意アラサレバ汝ガ産兒必スマサニ男ナラント言
テ先ツ帶シ玉フ十握ノ劔ヲ先喰食玉フ仍テ兒ヲ産
マス號シテ瀨津姫ト言ス又九握劔ヲ食シ人ヘバ兒
ヲ生ス湍津姫ト申ス又々八握劔ヲ食玉ヘバ兒ヲ生

京都府

玉フ田心姫ト號シ玉フ凡テ三女神マシマスナリ素
戔嗚尊其頸ニ嬰セル五百箇御統ノ瓊ヲ天ノ滄名丹
一名天ノ眞名丹濯テ食玉フ産兒ヲ正哉吾勝々速
日天忍穗耳尊地神二代治世三十万歳ト言ス次ニ産兒名ツケテ
天津彦根尊ト申ス次ニ産兒ヲ號ケテ活津彦根尊ト
稱シ次ニ産兒ヲ天穗日尊ト言シ出雲臣土師連遠祖也次産兒
ヲハ熊野倉忍踏尊ト言ス一名熊野日命是ノ五柱ノ
太神達ハ雙栗五柱ノ神ニテ坐ス也ト云々
夫レ當郷ニ於テ降臨影向ノ本源来由ヲ委ク尋聞ス
ルニ 神日本盤余彦尊神武天皇ヨリ人皇廿九代
武小廣國押眉宣化天皇 人皇廿九代 馭宇三年歳次
戊午秋九月七日山背國筒城東縣雙栗田原郷大岩山
ノ頂ニ五色雲鬘懸テ宛モ空中ヨリ糸ヲ引ガ如シ殊



ニ白鳥群リ飛リ其中ニ五柱神白鳥ニ駕シテ岩上ニ
降臨マシマシテ光ヲ放テ立玉ヘリ于時當郷ノ人雙
粟忌寸宿祢和途部茨彦ト云人是ヲ見タテマツリ其
大岩ノ下津盤根ニ宮柱ヲ太敷キ立テ齋キ祭リ玉フ
是ヲ雙粟岩本ノ五柱ノ神ト號シ奉レリ云々
神号五座光仁天皇御宇宝龜元庚辰年正三位大納言
田原湯原親王ト申方此郷ニ拙居マシマシ施基皇子
第二子也 神勅ヲ蒙リ玉ヒテ岩本ノ社ヨリ大宮ノ
地ニ遷シ玉ヒテ宮殿ヲ建テ祭リ玉フ三座

正哉吾勝々速日天忍穗耳尊

天津彦根命

活津彦命

又南ノ山ニ熊野掾良樟日命勸請シテ地ヲ熊ノ倉ト

京都府

號シケル

今日ノ本ト云ハ是也

夫ヨリ湯原親王大宮側ノ山ニ拙居シ玉フ聖院ノ馬

知是也親王ノ御父施基皇子田原天皇御蹟ヲ遷シ

築キ奉リ其側ニ一社ヲ建テ田原天皇ト稱シ奉レリ

親王薨去ノ後田原天皇御陵ニ納メ奉リ社ヲ建テ岩

代大明神ト號シケル也俗ニ誤テ岩代ヲ鰯ノ

一岩本雙粟天神社當郷惣社本宮トシテ天穗日命事代

主命大歳神ノ三坐ニシテ九月七日ヲ以テ神祭トス

岩本一族祠祭ル神也延喜式内神名帳山城国一百廿

二社ノ内ナリ

天平宝字四年三月甲戌皇太后不豫御禱トシテ勅使

少納言紀常元奉幣シ玉フ

仁壽元年正月甲戌朔庚子詔シテ神階宣下

一花山院御宇寛和二年丙戌八月春原朝臣安枝ト云人
アリテ神勅ニ依テ當郷ニ於テ八幡宮ヲ三所ニ祭レ
リ荒木八幡宮岩本八幡宮栗林八幡宮是ナリ

一天武天皇社在栗林中一社
在榭並木

此林中ニ栗樹アリテ毎年如煮如焼ナル栗ヲ生スル
ナリ其未縁ハ天武天皇自ラ植玉フト云々蓋シ天武
天皇ト申シ奉ルハ

舒明天皇ノ第三ノ皇子ニメ天智天皇ノ御弟宮ニテ
堅スナリ

天武帝ホ夕春宮ニテマシマス時淨見原親王ト申ナ
リシガ天智ノ皇子大友皇子疑心ヲ懷イテ淨見原親
王ト御中不快親王其心ヲ悟リテ天智十年辛未十
月大津宮ヲ辞シテ大和ナル吉野山ニ遷ラント勢多

京都府

ヨリ田上ヲ經テ兔道佐久利ノ郷ヲ過キ玉フニ雙栗
ノ郷人煮栗焼栗ノ二種ヲ献セシヲ親王自土中ニ
埋ニテ誓イ玉ハク吾本懐ヲ成ヘクハ芽ヲ生シテ成
長スベシト遂ニ二種ノ栗萌出タリ實菓如煮如焼仍
テ本縁アルヲ吉端トセリト云々仍テ天皇ノ社ヲ建
テ齋祭レリト云

一平治元年十二月八日大宮社并雙栗寺大御堂小御堂
炎上セリ其故ハ少納言信西入道ノ所領大道寺平岡
勢田ノ郷人等信西ノ癡アルヲ告ルニ依テ是ニ一
味セント欲ス仍テ岩本荒木ノ一族等大宮ノ前ノ
厠ニ勢揃ヘシテ大道寺ニ押寄ニトス大道寺衆徒批
行善學院義傳手勢ヲ率シテ熱田表ニ討出テ北方ト
一戦ニ及ヒシ折カラ信西ニ意ノアル奈嶋市野辺者

襲来リテ荒木岩本ノ勢ヲ散々ニ討散シアマツサハ
馬場通りヲ登リテ民家ヲ放火ス其餘炎大宮社諸社
等炎上セリ其上ニ雙栗寺ニ乱入シテ諸伽藍ニ火ヲ
放ツテ焼拂フタリ然後信西滅亡ノ後信西ノ一味ノ
者共皆々落失タリト云々仍テ荒木岩本一族等大道
寺ニ襲至リテ堂宇坊舎ニ火ヲ放テ焼拂フ其刻本尊
普賢佛モ焼失セリト云執行坊モ山中ニ入りテ自殺
セリ云々

夫ヨリ以来神躰ヲ岩本ノ本宮ノ社ノ地ニ仮殿ヲ構
ヘテ遷シ奉ル也夫ヨリ四十一年ヲ経テ亦々大宮社
ヲ再建シ返シ遷シ奉ルト云

一後宇多天皇御宇弘安六癸未年六月神勅ノコトアリ
當郷地頭代公文兵衛太夫源重宗ト云人六波羅廳所

京都府

訖ヘテ大宮ノ神ヲ別所ニ遷シ社頭ヲ建シ一ヲ願上
タリ則許容アリテ一社ヲ栗林ノ中ニ遷シ奉ル所謂
神躰ハ天津彦根命ヲ遷シ奉リ一之宮ト稱シ活津彦
根命ヲ以テ平岳ノ地ニ遷シ三之宮ト稱セリ仍テ神
変ヲ定ムル云

大宮社 九月九日

一之宮社 九月廿六日 神事

三之宮社 九月一日

天武天皇社 九月九日

田原天皇社 八月十四日

岩本本宮 九月七日

一曆應二己卯年九月十日南朝ノ勅命ニ依テ田原一族
并飯尾山衆徒鷲峯山寺衆徒地僧法師原惣田平岡岩

本三城ニ楯篋リ矢尾ヲ磨イテ楯篋ル由京都へ聞へ
ケレハ討平トシテ細川右馬頭清氏ノ軍將尾崎因幡
守忠勝三千余騎ニテ押寄タリ味方モ此ヲ詮ト防
戰トイヘ凡數輩討死忽三ヶ城落去ス此ノ時三ノ宮
大宮炎上セリ

一康永元壬午年四月十日巳刻大宮社柱立始同十一日
未之刻三之宮柱立同十六日大宮社棟上同十七日三
之宮棟上同廿三日大宮社遷宮同廿六日三之宮遷宮
大導師雙栗寺沙門西藏坊阿闍梨仲源
三之宮遷宮大導師鷲峯山寺西方院阿闍梨弘建

下司掃部助藤原時長
公文左兵衛尉源義長
大工 藤原盛方

京都府

小工 玉手秀重

一康安元辛丑年ヨリ神夏祭禮再與公文下司并一族中
著甲冑帶弓箭拜殿著座
神輿三基大御堂遷御之刻

射騎 步射 各五ヶ度

田樂法師新座本座出勒

申樂々頭若松太夫出勒

各祿米十石宛

貞治三甲辰年九月十八日記置之畢奉納社頭御内陣
也

探題岩本縫殿介藤原道喜 在判

附考 是以下を旋姫神社の附たる変ありぬ也
ちとと序の思ふに

雙栗神社 神名式
久世郡

先ハ森村ある玉田社の祝野口某云當社ハ本式内
の社よりて古くも雙栗神社と稱せし正徳年間
故ありて正一位を授給ひ社の名を玉田と云るより
きて玉田大明神と唱ふる変とちなりたりと云り通
志ハ雙栗神社在佐山村今稱極本宮と註も如是て
何れも依る傳しとも定の難きも似たり故按ハ凡
諸神ハ正一位を授給ふる変ハ旧史ハ見ふ而拾別の
大社ハありて先無例あり然るに此神社ハ三代実
録ハ貞觀元年の正月從五位下を授給ふるのこゝて
其後加階の變ハ物ハ見えけりある由縁あり

京都府

て正徳の項よりハ高位を授たりむるも實然なり
るも當時の宣命又ハ位記の類神庫ハ有はしする物
なくを此説信はふありて次ハ通志の説を按ハ玉
田祝ハ已ガ祭る所の神社ハ雙栗と云るに佐山村ハ
極本宮然ありと定めし據あるまざるべし然
れども其徴を聞ざれば是又疑ひなきありてかく
て今世ハ流布する所の式ハ雙栗をサクリと点下
るも雙の音を約て佐と云る歟然れども此雙の字ハ
佐の假字ハ用ひしこと古畫ハ見えけり是も又
後人の点下ること知れし然らむの訓ての宣
りんと云ふ是ハ河毛千別の奈美具利と訓るに依
り其故を書記用明卷ハ十四年秋八月淳中倉太珠敷
天皇崩九月甲寅朔戊午天皇即位館於磐余名曰



池邊雙槻宮と有て大和志に此宮今の安部長門邑と云ふにありて今稱雙槻神社と云ふに此雙槻の合せて奈美具利あること争ひありてかく名付る義に此神社のありてに二本の栗の大きありて並殖ナメと云ふに

里に雙栗神社と云ふに云ふに
次云佐山村極本々今棟本一品八幡宮と云ふ棟を極の誤りなるに云ふに但此極といふ木和漢三才圖會と云物に三叔木正字高丈許枝極皆三又而葉似水楊葉開小黄花作房と注したれど和名抄にありて木を毎て木具の中に叔極砂音方言云河東謂樹岐曰叔極和名里と見え新撰字鏡に極江南謂樹岐為叔極木乃万太と註し字書にも樹枝為極と極樹斜也とありて何れも木の候哉といふと聞えたりを三才圖會の説に

京都府

信信

久世郡式内 二十四座ノ内

水度神社考證 其社上申書及繪圖ヲ後ニ附

水度神社三座整報

水度ハ美止ト訓ヘシ○祭神天照高御魂海神豐玉姬命

釋日本紀云山城風土記云久世郡水度社天照高御魂比命和多都弥豐玉比賣命先師案云神名帳三座也風土記天照高御魂海神豐玉姬命三神右有由緒者也○同郡茅二區寺田村ニ鎮座ス

按スルニ興福寺官務牒ニ此牒嘉吉元年ノ跋アリ圓誠寺在久世

郡三田御水度僧房十四字トミヘ山城名跡志ニ久世

郡三田阪在久世南十四丁大和街道下云ヲ以テ考フ

レハ官務牒ニ云三田御水度ハ志云三田阪ノ邊ナル

京都府

ヘシ此三田阪ハ則寺田村産神ノ西南五丁許大和街

道ノ小阪是ナリ又此産神鎮座ノ地ヲ水戸芝山下云

ヒ又此山峰ヲ水戸々崎ト称スト云リ然則水度神社

ハ此産神ニ非スレテ外徴スヘキモノナキナリ○又

久世社去離遠カラスシテ古ク万葉和歌ニモ見レタ

レハ山城志ニ之ヲ混シテ水度神社在寺田村一名久

世社ト云ヘトモ是固ヨリ別社ニシテ祭神日本武尊

ト云ハ則水度神社非ルナルヘシ



久世郡第二區寺田村鎮坐式内水度神社取調書

祠堂

水田厚宣

久世郡第二區



京都府管下山城國久世郡第三區寺田村

鎮坐 水度芝山

式内水度神社

祭神

天照大御神

高皇產靈神

少童豐玉姬命

山城風土記云久世郡水度社天照高皇年

須比命和多都美豐玉姬命神名帖頭註云

三神合祭可有由緒者也

三代實錄日貞觀元年正月廿七日奉授

正六位上水度神從五位下

間傳

水度神社大和街道二三町東ニ鎮坐往京右街

道水津川流ニ當ルト云舊記等紛失取調ガ

タクト虫則社坤方ニ水度坂ト申字有之今ハ

大和街道且境内領東ニ鴻巣ト云高山アリ
此接續ニウ子リ山是ラ水度崎ト云フ

一 勸請年月不詳

一 例祭日 旧曆九月二日

一 社 殿 建坪四坪

拜 殿 建坪七坪

末 社

天満宮社 建坪半坪

神明社 建坪半坪

八幡社 建坪半坪

春日社 建坪半坪

日吉社 建坪半坪

賀茂社 建坪半坪

稻荷社 建坪半坪

坐敷宮社 建坪半坪

祈雨社 建坪半坪

久世郡第二區

社務所 建坪七坪
繪馬所 建坪七坪半
物入 建坪十坪
井舎 建坪一坪
神庭廻玉塙 長六十間
石鳥居 一基
石燈籠 廿四基
旧境内 寺町八畝五分六厘
現境内 五反五畝五分六厘
社領朱墨印無街坐候
戸子 四百十戸
但寺田村一村限
自該廳距離五里余

久世郡第二區

二社家菅原性往古ヨリ水田府生ニ而敷代奉
仕致レ日記等ハ安政元年寅霜月私家焼失ニ而
紛失仕候應永三三年ヨリ湯釜所持致レ其後
吉田殿ヨリ元録八年乙亥四月九日水田若狹菅原
長賢祠官許狀項戴配下ニ相成候

水田長賢

水田師賢

水田厚美

水田厚雄

水田厚宣

右之通御坐候

明治八年十月

祠堂

戸長

水田厚宣

表西為女

京都府権知事榎村正直殿

水度神社



京都府檜木村近江



久世郡式内二十四座ノ内

且掠神社考證其社上申書及繪図ヲ後ニ附

且掠神社

且掠ハ阿佐久良ト訓スヘシ○祭神不詳按スルニ釋日本紀ニ土佐國

土佐郡朝倉神社ハ大羽々神ニテ天石戸別神子也ト風土記ニ見ユタルヨシ注シタレハ此且掠モ朝倉ノ借字

ニテ同神ナルヘシ○山城志云在大久保村栗隈社大久保村ハ同郡ニ區ナリ

按ルニ栗隈社天文十九年ニ回祿シテ旧記皆燒失シ

其後旧地ニ天満宮ヲ勸請セルム子土人之ヲ傳ルノ

ミニテ又證スヘキモノナシ然ト雖モ外類似ノ神社

ナケレハ今志ニ從フナリ

京都府

類社

紀伊國名草郡朝掠神社土佐郡朝倉神社

山城國久世郡萬載園古久保村

鎮座内 栗隈山

旦棕神社

祭神

高皇產靈神
神皇產靈神

天満宮相殿

一 由緒

天文十九年庚戌十月有燒矣仕山寺同書
記亦每座座多乃其地別叙中其後

一 勸請

年月不詳

一 例祭日

但從前九月七日修慶
新曆十月七日改中修

一 社殿

建坪

九坪三合

未社

建坪

三坪

并殿

建坪

三坪三合

物入

建坪

六坪三合

一 旧境内

二町二反三合十步

一 现在境内

一及取取步

一 旧社領

朱黒印赤無活産儀

一 戸子

佐吉村限り三座産儀百四軒

一 自該廳距離

五里拾式丁



天八下尊 天神弟三 天之降尊 天神弟

天合尊 天神弟八 天之旨尊 天神弟五

栗隈山且棕神社

栗隈并三宅六帖曰 栗隈麻能山爾朝立錐子

雲利毛。我手波加里止。思女疏哉

長能家集言武隈身。双豆之禮違道利九里巨

麻之三宅能前爾松之流園

栗橋三宅 在大久保町名屋也



且棕神社 在大久保町栗隈社後有少家七五人號七社

古之通中切然之志記係座山乃古旧記書教也

吾邊存世之付不詳字且棕由り七と社之氣也右

往古ヨリ一社也世世或合分り不わ世傳古傳家

之要子今未殘り少社也七と傳り傳(世右)

致意給ふ善と少思世所其申と世以と

以治以年十月廿七 久世新并區古傳村

且棕神社 初年 北村古之印



KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

centimetres

KODAK Color Control Patches

©Eastman Kodak Company, 1997



且棕神社4 5-6 L04080

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11

Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

White

3/Color

Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

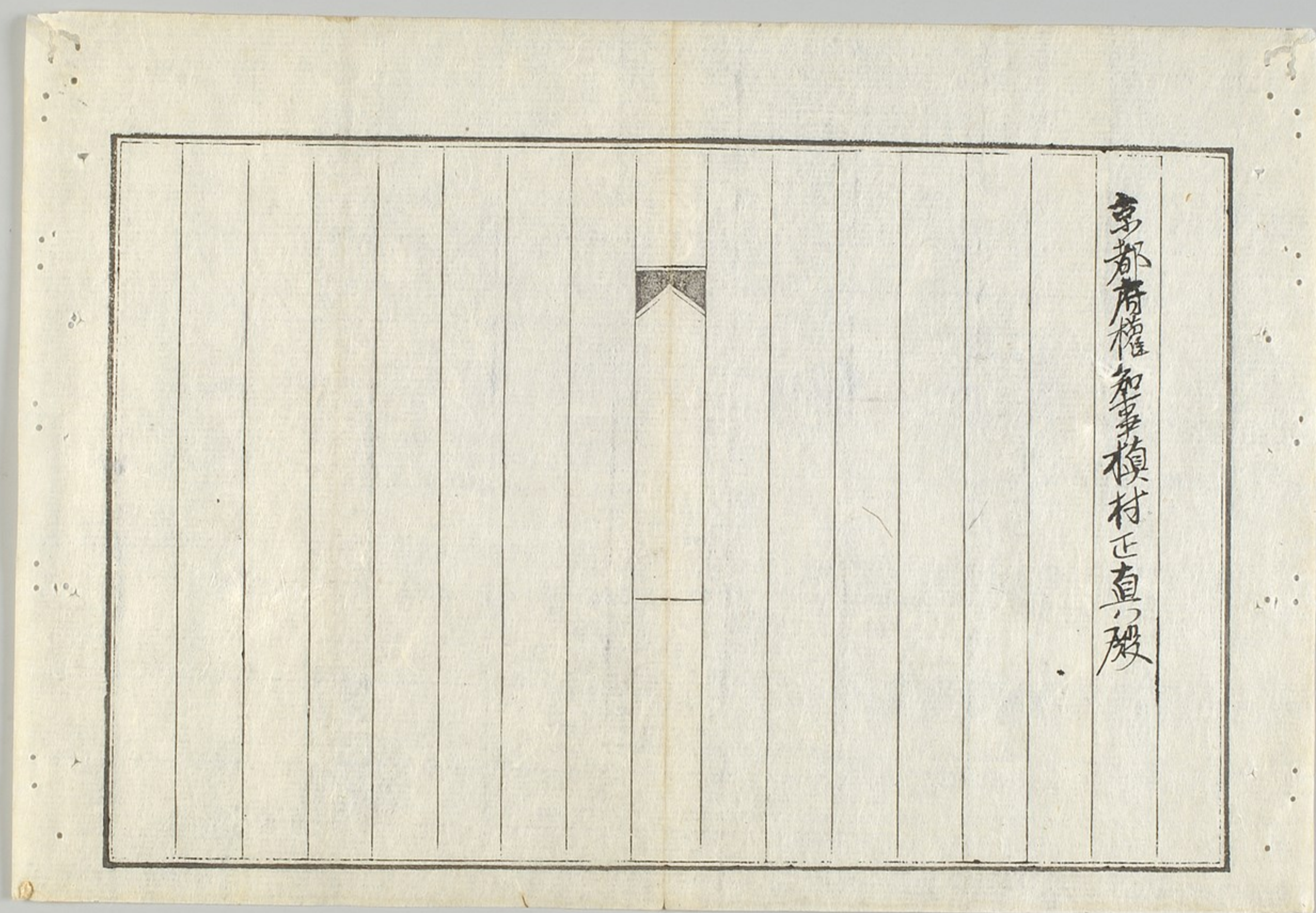
Black

Black

Black



旦棕神社5 5-6 L04081



京都府権知事榎村正直の殿

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9



栗隈山且棕神社

栗隈山且棕神社
栗隈山且棕神社
栗隈山且棕神社



栗隈山且棕神社 5-8 800408

久世郡式内二十四座ノ内

伊勢田神社考證其社上申書及繪図ヲ後ニ附

伊勢田神社三座鑿報

伊勢田ハ假字ナリ○祭神天照大神外二座ハ蓋宗廟所

配ノ如キ力惣國風土記發歛云伊世田神社圭田七十二東三毛田所祭天照大神也大宝三年癸卯九月始奉圭田行神禮

○同郡茅ヶ區伊勢田村ニ鎮座山城志云伊勢田村今称天王

按スルニ當社旧記傳ラス又曾大梵天王ト称スト雖

モ則同村ノ産神ナレハ是伊勢田神社ナルヲ知ルハ

シ

神位

京都府

三代實錄貞觀元年正月廿七日甲申奉授山城國正六位

上伊勢田神從五位下

KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11

Black

3/Color

White

KODAK Color Control Patches
©Eastman Kodak Company, 1997
Red Magenta
Yellow
Green
Cyan

Blue

7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1

伊勢田神社2 5-7 L04084

明治八年八月

神社取調書

山城國久世郡第志區伊勢田村

伊勢田神社

破

破

京都府管轄山城國久世郡第一區伊勢田村

鎮座

伊勢田神社

祭神

多刀雄命
天照皇大神宮
豐秋津姬命

由緒

三代實祿云貞觀元年正月廿七日奉授
正六位上伊勢田神社從五位下

山城風土記云伊勢田神社坐田七十二

東三毛田所祭 天照皇大神也

大室三年癸丑九月始坐田行神札

一 勸請年記相不知申長

一 例祭十月九日 但之新曆三御座長

但之伊勢田社年中祭日或法

一月一日 神供 祝詞一座

二月二日 神供 祝詞一座

三月三日 神供 祝詞一座

一	旧社領朱墨印除地、吾御座也	一	現立境内 三及前町步	一	旧境内 壹町三及八町步	一	手洗心 建坪 二坪	一	拜殿 建坪 八坪五合	一	日 稻荷社 建坪 五合	一	未社 春日社 建坪 五合	一	祭神 大歳神	一	日 他田社 建坪 一坪 但是年真地	一	攝社 八幡宮社 建坪 五坪	一	本社 建坪 十坪五合	一	社殿 建坪	一	十月九日 献神樂 祝詞一座	一	例祭十月九日 神供 祝詞一座	一	八月一日 神供 祝詞一座	一	五月九日 献神樂 祝詞一座
---	---------------	---	------------	---	-------------	---	-----------	---	------------	---	-------------	---	--------------	---	--------	---	-------------------	---	---------------	---	------------	---	-------	---	---------------	---	----------------	---	--------------	---	---------------



KODAK Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11



Black

©Eastman Kodak Company, 1997

KODAK Color Control Patches

White

3/Color

Magenta

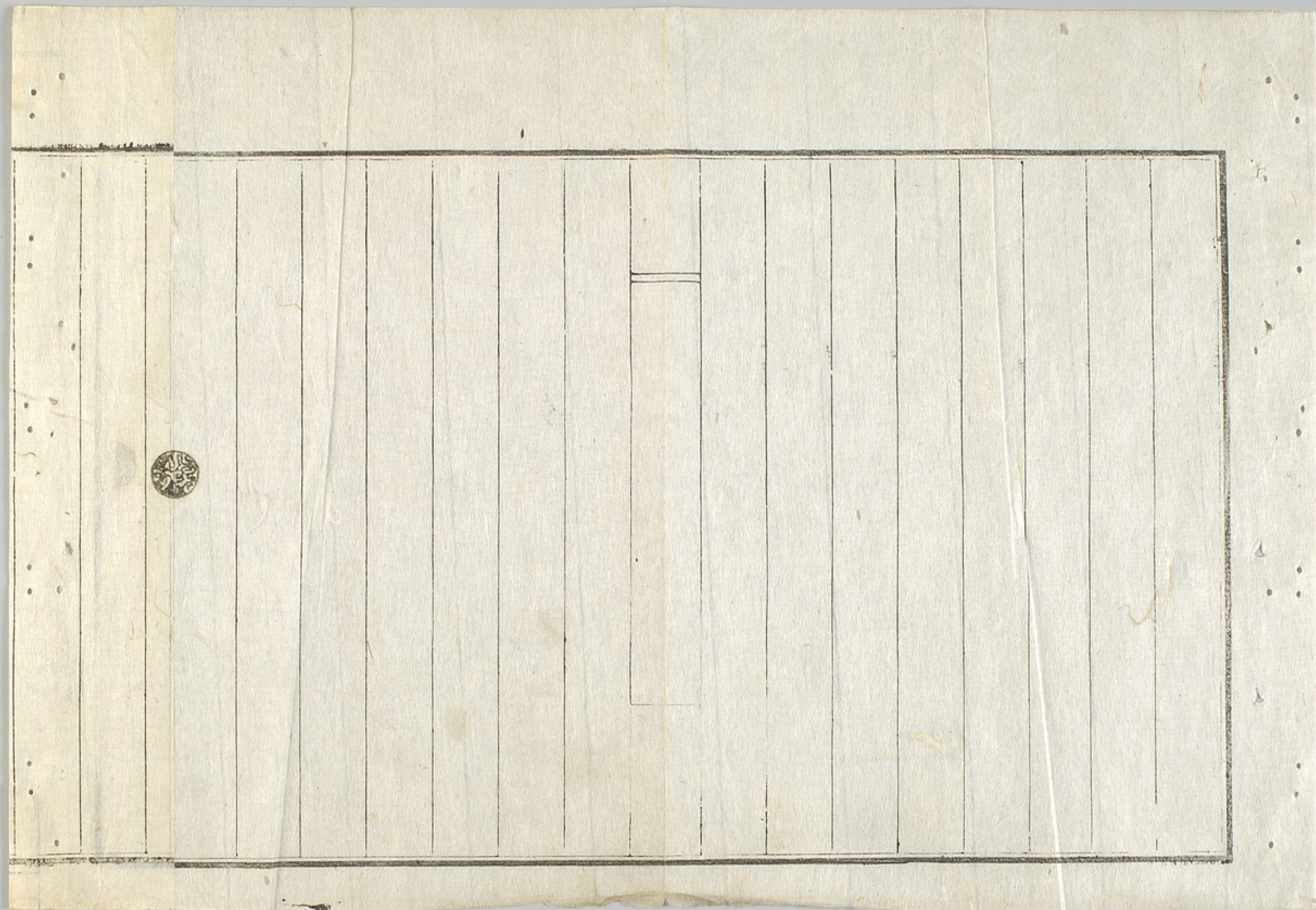
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



伊勢田神社6 5-7 L04088



伊勢田神社繪圖



伊勢田神社 5-9 C04009

久世郡式内二十四

巨椋神社考證其社上申書及
繪圖ヲ後ニ附

巨椋神社

巨椋ハ於保久良ト訓スヘシ萬葉集九巨椋乃入江響奈
理射目人乃伏見何田井再

良之○祭神推靈魂神欽山城國風土記殘缺云巨椋比咩
大神圭田五十八東河祭推靈魂

神也仁賢天皇三年庚午圭田行神禮○姓氏録山城天
神巨椋連止由波知命之後也考證云按神魂命孫也○社

說云祭神春日同體○按スルニ或人云祭神の訛風土記
巨椋比咩社とて所祭推靈と云るハ甚紛ハク其證なき姓

氏録ニ依て氏神カと思ヘハ異神ニ在ルリ其證なき限
リハ定ぬカムヘト此說一度り聞ヘタレトモ當

社ヲ必ス氏神ト定ムヘキ證モナ○同郡兼美區小倉村
ケレハ先風土記ニ從テ可ナリ

ニ鎮座山城志云在小
倉村今稱春日

京都府

按スルニ當社旧記傳ラス又曾春日ト稱スト雖モ其

鎮座スル小倉村ハ巨椋ヲ約言セシヨリ文字ヲ變シ

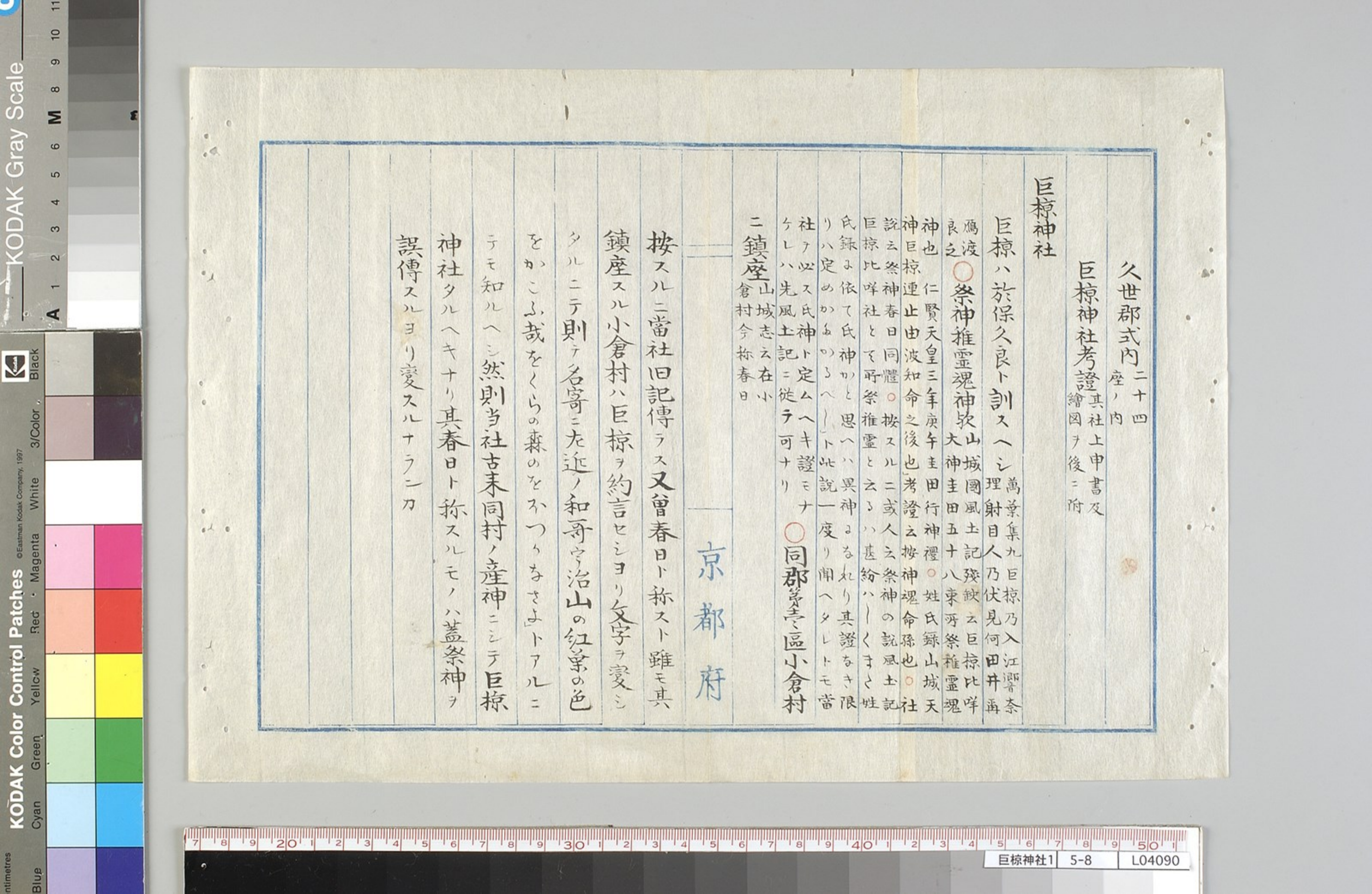
タルニテ則テ名寄ニ尤近ノ和哥宇治山の紅葉の色

をかこふ哉をくらの森のををつらなさはよトアルニ

テモ知ルヘシ然則當社古末同村ノ産神ニシテ巨椋

神社タルヘキナリ其春日ト稱スルモノハ蓋祭神ヲ

誤傳スルヨリ變スルナラニカ





明治八年八月

神社取調書

山城國久世郡茅一區小奈村

巨椋神社



京都府管下山城國公世郡等區小倉村

鎮座小倉村内

式外
巨椋神社

祭神

武甕槌神 経津主神
天兒玉屋神 姫太神

由緒

巨椋社儀由緒等モ有之候得共往年
流亡致シ不明候得共山城風土記云
仁賢三年庚午壬申田五十八束以壬申行

神礼

一 勸請

年月不詳

一例祭

十月八日

但シ新曆ニ御座候

年中行事

一月一日

神酒二鏡餅四重

潔祓三座

祝詞

同 七日

神供

潔祓

祝詞

同 十五日

神饌三座

潔祓

祝詞

同 廿八日

神饌三座

潔祓祝詞中臣祓百座

二月一日

神酒神供

潔祓

祝詞

同 十五日

神酒

潔祓

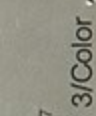
祝詞

同 廿八日

洗米

潔祓

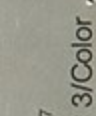
祝詞



九月一日	神酒神供	潔祓	祝	詞
同八日	洗米	潔祓	祝	詞
同十五日	洗米	潔祓	祝	詞
同廿八日	洗米	潔祓	祝	詞
十月一日	神酒神樂奏	潔祓	祝	詞
同七日	神酒四瓶神樂奏	潔祓三座	祝	詞
同八日例祭日	神饌八基神樂奏奉幣	祝	祝	詞
同十五日	洗米	潔祓	祝	詞
同廿八日	洗米	潔祓	祝	詞
十一月一日	神酒神供	潔祓	祝	詞
同十五日	洗米	潔祓	祝	詞
同廿八日	洗米	潔祓	祝	詞
十二月一日	神酒神供	潔祓	祝	詞
同十五日	洗米	潔祓	祝	詞
同廿八日	洗米	潔祓	祝	詞
同三十日	大祓神酒二瓶神供	潔祓	祝	詞

此余御定日之遙并式執行致候事





一社依京都府近江四里	一氏子戸殺 但一村限山御座候 百才壹戸	一旧社領并朱黒印無御座候	一旅所 壹及二町分	一現在境内 五及七町分	一旧境内 従前之通	手洗屋形建坪 壹坪	并殿 建坪 七坪	中門 建坪 六坪	蛭児社	天満宮	勝平宮	八幡宮	末社 建坪 壹坪宛	祭神 天磐梯神 蛭子太神	棋社 建坪 壹坪	本社 建坪 二拾坪	一社殿建坪
------------	---------------------------	--------------	--------------	----------------	--------------	--------------	-------------	-------------	-----	-----	-----	-----	--------------	--------------------	-------------	--------------	-------





京都府権知事 榎村正直殿

右之通取調相透之御座候以上

巨椋社祠堂

宮本孝信

右村戸長

市上志多子



旅所

本社

巨椋神社之繪圖



巨椋神社 5-10 | C04010

久世郡式内 二十四
座ノ内

室城神社考證 其社上申書及
繪圖ヲ後ニ附

室城神社

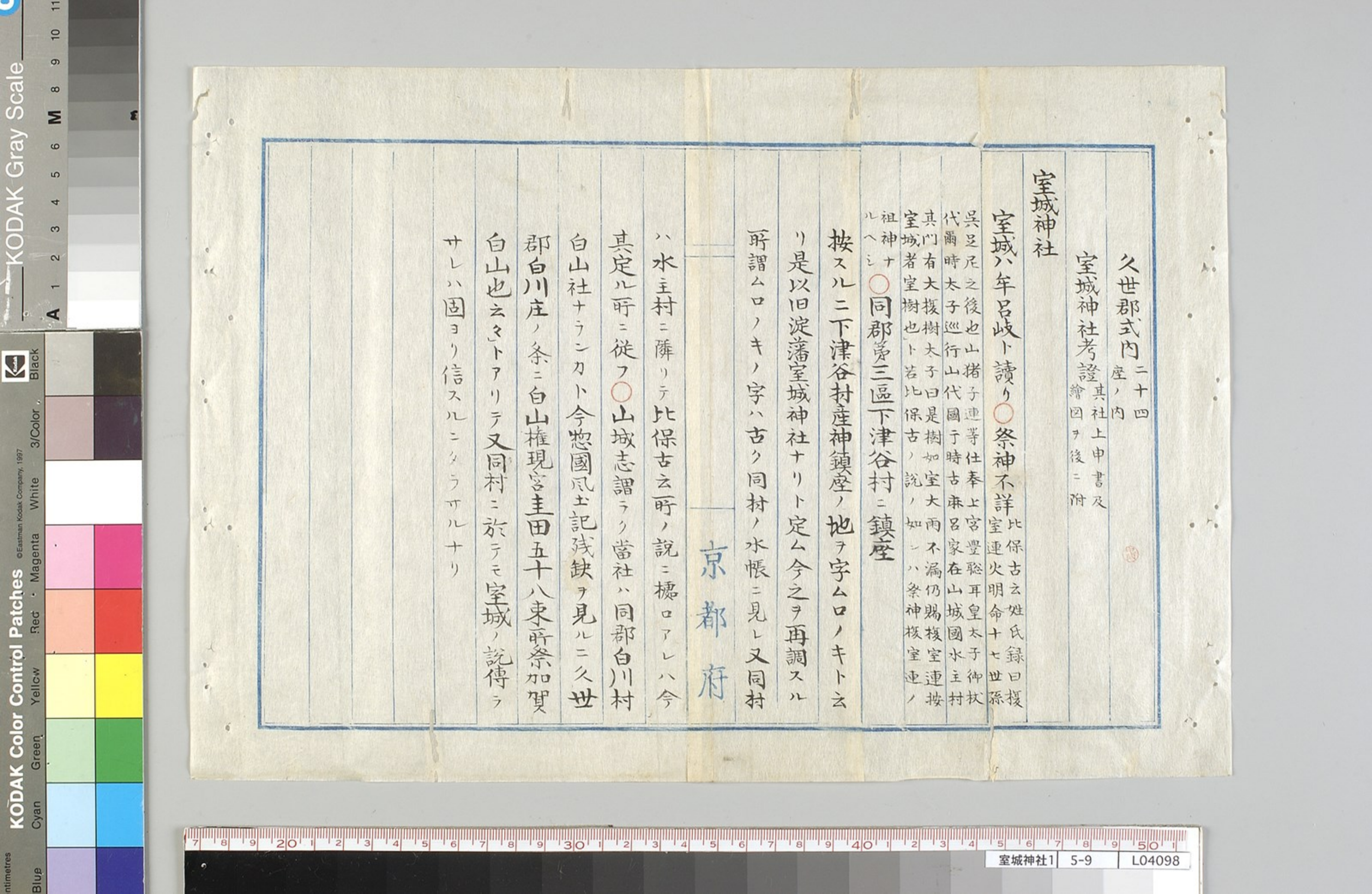
室城ハ年呂岐ト讀リ ○祭神不詳 比保古云姓氏録曰援
室連火明命十七世孫

吳足尼之後也山猪子連等仕奉上宮豊聡耳皇太子御杖
代爾時太子巡行山代國于時古麻呂家在山城國水主村
其門有大榎樹太子曰是樹如室大雨不漏仍賜榎室連按
室城者室樹也ト若比保古ノ説ノ如シハ祭神榎室連ノ
祖神ナルヘシ ○同郡第三區下津谷村ニ鎮座

按スルニ下津谷村産神鎮座ノ地ヲ字ム口ノキト云
リ是以旧淀藩室城神社ナリト定ム今之ヲ再調スル
所謂ム口ノキノ字ハ古ク同村ノ水帳ニ見レ又同村

京都府

ハ水主村ニ隣リテ比保古云所ノ説ニ據ロアレハ今
其定ル所ニ從フ ○山城志謂ラク當社ハ同郡白川村
白山社ナラニカト今惣國風土記残缺ヲ見ルニ久世
郡白川庄ノ条ニ白山権現宮圭田五十八束所祭加賀
白山也云々トアリテ又同村ニ於テモ室城ノ説傳ラ
サレハ固ヨリ信スルニタラサルナリ



京都府管下山城岡久世郡美濃下津谷村

鎮座字室城

室城神社

祭神

通々藝命

大雀皇命

須佐之男命

迎貝土神

由緒

当社之義明治二年己迄二百五拾年己前

大社之清座候久寛永七年堤切而元社

水破仕只今之儀仮社之清座長之性古之

聖哉天皇御幸者之仁遠室城城主

正六位上田朝臣清磨之延暦二年賜祿其

事之圖史相見之在粟隈書記等有之

之、貝相合候哉、可待候得共流交仕

只今命を漸々城海居屋敷のまゝ子孫田口

今之儀大閣様ヨリ九万八千石除く御代官

永代仕朝鮮征伐入唐出陣仕り功陣に上

拜候之品も屯々有之候処寛文二宮年類火

之儀焼失仕只今命を漸々

肉付狸々唐頭

瀬戸根元沼津焼去金

唐釜風絶

右三品も今所持仕来り申候右田口之儀ヨリ

十二世末孫田口明福神職仕候也

御請年曆

不詳

例祭九月十一日

卯祭被

但旧唐三法座候

社殿建坪

五坪

末社八神殿社

志坪

末社住吉神

志坪

拜殿

四坪

神供所

十坪

旧境内及別

二反志取六步

現境内

従前之通

御旅所

貳畝七步

氏子戸数

六拾壹戸

但下津合村惣氏子之御座候也
糸里之系 正徳三年也

自請廳距離

京都府ヨリ

四里貳拾丁

右之通之御座候也

右村戸長奥野孫之良

同村室城神社祠堂

田口明福

明治八年
六月二月

京都府権知事 植村正直殿

KODAK Gray Scale

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

centimetres

KODAK Color Control Patches

©Eastman Kodak Company, 1997



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9



東

久世親房之區百津谷村
室城神社

京都府権知事 榎村正直殿

明治八年 六月



室城神社 5-11 C04011